

相模川で捕獲されたカラフトマス

今井啓吾

Keigo Imai: First Record of a Pink Salmon,
Oncorhynchus gorbuscha, from Sagami River

はじめに

カラフトマス *Oncorhynchus gorbuscha* (Walbaum) が恒常的に遡上するのは、岩手県北部と朝鮮半島北部～北太平洋沿岸各地を経てカリフォルニア北部にいたる河川であり(井田, 2000), 宮城県の大川(帰山・正田, 1984)や栃木県的那珂川(手塚, 1988)などの捕獲例は、迷入と推察されている(真山, 1989)。

相模川における記録

今回、相模川河口より約29 km上流において、カラフトマス(図1)が捕獲され、これは神奈川県内並びに相模湾流入河川からの初記録になるので報告する。なお、捕獲地点は図2に示した。また、種の同定、学名、諸形質の測定方法は中坊(1993)に従った。

2003年7月26日夜、神奈川県相模原市田名の相模川(高田橋付近)にて、雄のカラフトマス1個体が、同市在住の菅原靖宏氏により手網で捕獲された。当時、河川敷には、大雨による氾濫で出来た水溜りが数ヶ所存在し、アユをはじめ、オイカワ、ニゴイなどが多数取り残されており、標本はこれらと混泳しているところを発見された。冷蔵庫内で半日経過した標本は、相模原市立相模川ふれあい科学館に寄贈され、生物資料(EASG-11)として登録、保管されている。

外観と諸形質の測定結果

標本は、本種の成熟した雄特有の背隆起が認められ、頭部と各鰭が黒褐色、背体側は青味がかった褐色で腹部は白く、側線下部にはうっすらと黄

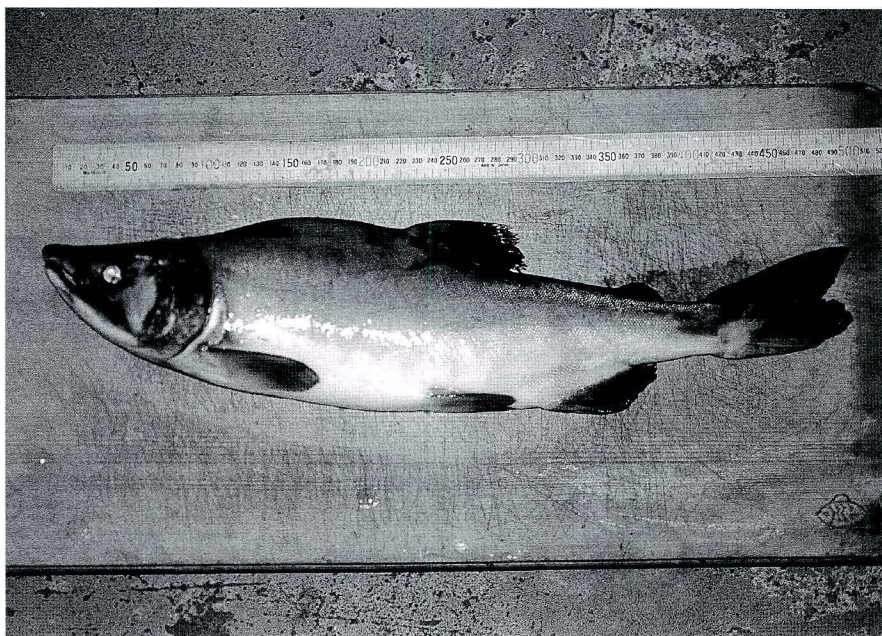


図1. カラフトマス *Oncorhynchus gorbuscha* (Walbaum).

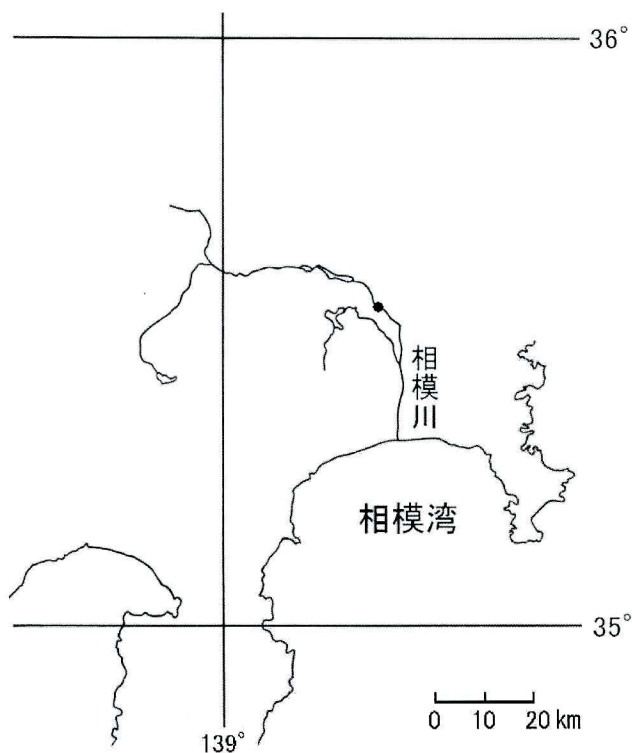


図2. 捕獲地点.

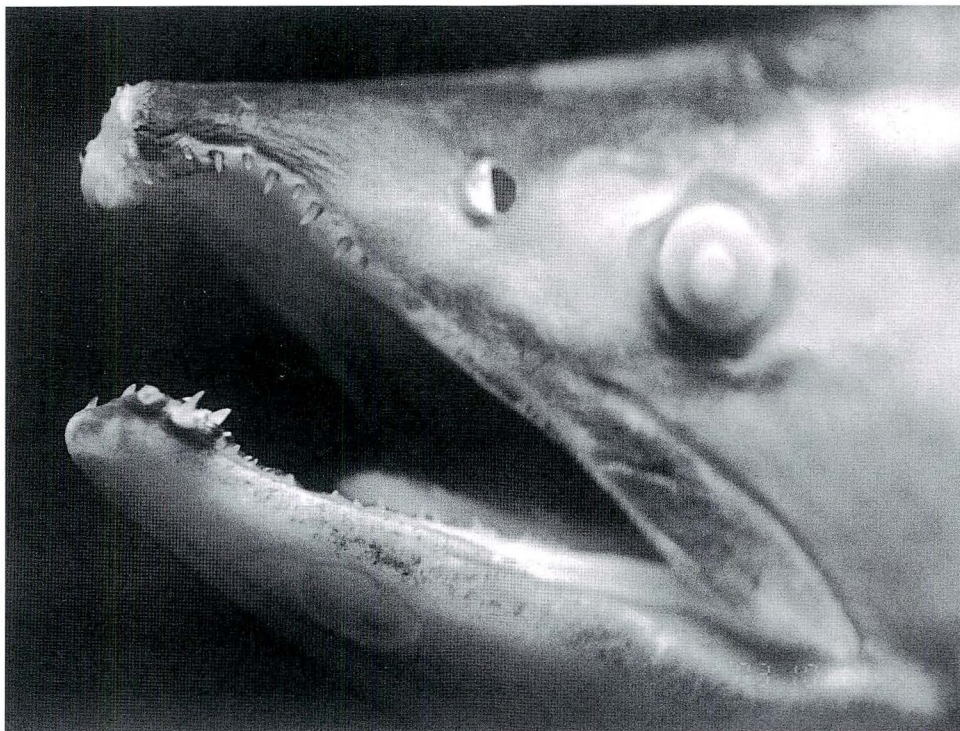


図3. 欠損した吻端。

色帯があり、前鰓蓋骨付近の黄色は特に明瞭であった。10%ホルマリン液固定後、体色は白く薄れてしまったが、尾鰭の黒色斑紋は明瞭に認められた。

EASG-11：全長483 mm，尾叉長471 mm，体長425 mm，頭長123 mm，吻長49 mm，眼径13 mm，体高109 mm，尾柄高32 mm，体重1100 g，背鰭14軟条，臀鰭16軟条，胸鰭16軟条，腹鰭11軟条

なお、標本は吻端が欠損しているため（図3），測定は欠損部を基点にして行った。

付記

天竜川漁業協同組合からの聞き取り調査によれば、2002年9月15日に、静岡県天竜市渡ヶ島为天竜川（河口より25 km上流）にて、全長527 mm，尾叉長503 mm，体重1110 gの雄1個体が捕獲されている。この捕獲例が目下のところ本種の最南記録である。また、2003年7月17日に栃木県小川町的那珂川にて、全長約500 mmの雄1個体が発見されている（加賀豊仁氏私信）。これらの迷入個体はいずれも雄であった。今回発見された個体もまた、同様に雄であったが、独立行政法人さけ・ます資源管理センターからの聞き取り調査によれば、北海道の河川に遡上し、人工孵化のために捕獲されたカラフトマス親魚の性比は、2002年（雄66万尾，雌52万尾），2003年（雄64万尾，雌54万尾）で、恒常的に遡上する河川においても雄の比率が高かった。

謝辞

本報をまとめるにあたり、有益な助言をいただいた横須賀市自然博物館の萩原清司氏、神奈川県水産総合研究所内水面試験場の勝呂尚之氏、江ノ島水族館の諸氏に厚く御礼申し上げる。また、協力いただいた栃木県水産試験場の加賀豊仁氏、標本を寄贈いただいた菅原靖宏氏に感謝の意を表す。最後に本報投稿への機会をいただいた江ノ島水族館の堀由紀子館長に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 井田 齋，2000. カラフトマス. 岡村 収・尼岡邦夫編，日本の海水魚，p.102. 山と溪谷社，東京.
- 埴山雅秀・疋田豊彦，1984. 本州太平洋岸気仙沼大川にそ上したカラフトマス. 北海道さけ・ますふ化場研究報告，(38): 79-82.
- 真山 紘，1989. カラフトマス. 川那部浩哉・水野信彦編，日本の淡水魚，pp.226-231. 山と溪谷社，東京.
- 中坊徹次編，1993. 日本産魚類検索:全種の同定. xxxiv + 1474pp. 東海大学出版会，東京.
- 手塚 清，1988. 栃木県的那珂川にそ上したカラフトマス. 栃木県水産試験場業務報告書，(33):116.

（相模原市立相模川ふれあい科学館）